



株式会社大和屋

2050年問題の解決へ 3社連携で国産コーヒー 障がい者雇用促進



高崎市

住 所 高崎市筑縄町382-2
T E L 027-370-2700
M a i l mail@yamato-ya.jp
U R L https://www.yamato-ya.jp/

代表者 平湯 聡

設 立 1980年10月1日

資本金 3,000万円

従業員 59人

WEBサイト



企業紹介

1980年に創業した当社は、全国でも先駆的にコーヒー豆の販売を手掛けてきました。コーヒー豆の製造および卸・小売販売が主な事業で、日本の風土・日本人の嗜好に合わせて炭でコーヒーを焙煎するのが特長です。ガスや電気では出せない炭火の香ばしさや豊かな味わいの「木炭焙煎珈琲」は、創業以来大切に守ってきた会社の財産です。そんな“和の珈琲”に合わせて、全国各地の陶磁器の取り扱いや、お菓子とのペアリングなど「コーヒーのあるライフスタイルの提案」を大切にしています。

経緯・背景

コーヒー業界では【2050年問題】が懸念されています。地球温暖化による気候変動などにより、コーヒーの栽培適地の減少、ひいては著しいコーヒー豆の価格上昇が予想されます。

この現状を打破すべく、国産コーヒーの事業化を決意しました。太陽光パネル設置型ハウスによる再生可能エネルギーの活用と、障がい者雇用の促進を並行して行います。そこで、唯一無二である国産ブランドのコーヒーの販売が可能となり、付加価値創出による障がい者への工賃単価の向上を図ります。

輸入依存からの脱却 農福連携でのコーヒー栽培 ゼロエミッション実現

具体的な取組・成果

国産コーヒーの事業化に関しては高崎市内でコーヒー苗を栽培するため、各社で得意分野を持つ3社で協業して進めていきます。

ファームドゥグループと提携することで、同社が特許技術を有する太陽光パネル設置型ビニールハウスを活用し、そのビニールハウス内でコーヒーの苗を植えます。栽培については、(株)おもつなが運営している就労継続支援B型事業所「ワークランドらくま」の職員が、コーヒー農家やファームドゥグループから指導を受け、主として利用者である障がい者の方が栽培・苗の育成から、コーヒーの実の収穫、乾燥、コーヒー生豆になるまでの生産を行います。これにより、「ゼロエミッション農業」「障がい者雇用の促進」が実現します。



ソーラーファーム

そして当社がファームドゥグループからコーヒーの生豆を購入し、コーヒーの焙煎は当社の製造工場で行います。今まで使用する全量を輸入に頼らなければならなかったコーヒー豆が、同じ市内で原料を調達することができ、栽培から生産、販売まで一貫して行うことが可能となります。当初は試験的な部分もあり少量生産から始める予定ですが、今後は群馬県内の耕作放棄地、遊休地も活用し生産を拡大していきます。沖縄や九州の一部で国産コーヒーの取組はすでにありま



コーヒー苗の栽培(ファームドゥ)

すが、個人事業主の経営が主であり生産もごく少量なもので高額で販売されています。しかし、このプロジェクトでは、とれたてでフレッシュなコーヒーをリーズナブルな価格で日常的に飲むことができることを目標としており、全国的にも先駆的な取組といえます。このプロジェクトをコーヒーを通して行うことで消費者の方に「2050年問題」を身近に感じてもらうきっかけになれば幸いです。



プロジェクトに取り組む関係者(上毛新聞社提供)

当社にとってのSDGsビジョン

高品質な商品を適正価格で適正に取引を行うこと(フェアトレード)により、生産地の貧困の解消や発展途上国との不平等を解消することに繋がります。更に農園や生産者の情報をオープンにすることで販売者としての責任を明確に担います。

また、地球温暖化による2050年問題の解決に向けて、具体的な解決策を模索し実行していきます。

今後の展望と求めるパートナー像

今後、大量生産が見込まれる際には、1棟1億円程度の太陽光パネル設置型ハウスを遊休農地に随時建設します。ハウス1棟あたり平均的な数量として300本を見込みます。近隣に就労継続支援型作業所を設置する際には1か所に500万程度の初期費用が生じます。これらの費用は各事業者が自己資金や借入金で賄いますが、NFTによるオーナー制度やクラウドファンディングなどの活用も視野に入れていきます。これらの構想に力を貸していただけるパートナーを希望します。